こうやブランケット ニュース 2024 vol.28 冬号

チラシ見ていただいた方限定！
まとめ買いは相談に応じます。
詳しくは弊社まで連絡を！

米阪パイル織物㈱
和歌山県橋本市神野々 720
TEL: 0736-32-1404 / Mail : info@yyypile.com
営業時間：8:00～17:00（土日祝除く）

弊社 HP　商品の詳細は QR コードをチェック！

真に豊かな生活を目指して！

世界にデジタル化の波が押し寄せ、AI 化が急速に浸透した。自動車の EV 化をいち早く手掛けた中国がシェアを伸ばしている。間違いなく便利さは向上している。しかし、これで人類は果たして豊かになったと言えるのだろうか？戦後の経済的・物質的豊かさの追求から、今や人の価値観は変化し、多様性や公平性、精神的な豊かさなど、さまざまな側面から豊かさを考える時代へと変化した。近頃、SNS を悪用した犯罪が増加している。当初は振り込め詐欺が流行っていたが、ある程度世間に浸透し、成功率が下がったと思えば、近頃は、ホワイト案件と称してお金に困っている若者を募り、免許証など個人情報を人質に抜け出せないようにして、犯罪の実行犯をさせるという極めて悪質な犯罪が急増している。ある意味、犯罪慣れしていない日本の弱点とも言える。海外では、日本ほど治安が良くなく、犯罪率も高いため、防犯対策への投資や意識も高い。一方、日本の良さもある。先日、家の鍵とカード類全部と現金を入れた財布を外出中に、それぞれ別の日に落とした。幸いにも、いずれも良い人に拾われ、手元に戻ってきた。鍵はともかく、財布がそのまま中身ごと戻るなんて、日本以外ではあり得ない！とただただ感謝。日本は平和な国だなぁと改めて感じた。安易に犯罪に加担しない国民意識の底上げが急がれる！

水族館

言わずもがな、動物園と並び老若男女を問わず、楽しめる人気スポットである。基本、屋内なので夏の暑さや冬の寒さをしのげるのもありがたい。先日、大阪海遊館の看板魚のジンベエザメが高知沖に放流されるニュースを見た。一生飼い続けるのかと思っている人も多いと思うが、搬入時 4m 強だった体長が、6m を超えると水槽が窮屈になるため、放流するのが通常だそう。最大の個体は全長 20m、体重 35t になるとか。１９９０年の開業以来、オスの海くんは８代目である。世界最大の魚類ジンベエザメの生態は不明な点が多く、放流後１か月間、行動の記録を取り、胸ビレや背ビレから自然脱落して海上を浮遊する小型記録機を海上から回収してこれを解析するとのこと。ジンベエザメを見られる水族館も現在国内３か所限定である。海遊館以外は、沖縄美ら海水族館、いおワールドかごしま水族館である。海外でも展示は少なく、アメリカのジョージア水族館（アトランタ州）、中国の煙台海昌鯨鮫水族館（煙台市）の２か所のみ。大きくなりすぎて、飼育困難になり、海に放流して手放すところも少なくない。色々調べるうち、本来、このような動物の展示行為は、①種の保存：絶滅危惧の動物を保護する。②教育：生物等について考えるきっかけを与える。③調査・研究：生物の生態・飼育法を研究。④レクリエーション：人への安らぎや娯楽を与える。の４つの目的があるとのこと。海で偶然捕獲され、有無を言わせず強制的に連行され、水槽で展示されるやり方は、北朝鮮拉致の状況と被る。帰りを待つ家族の存在を考えると心が痛む。地球上を人間が支配するかのように、他の生物の生活を脅かし、やがて人間間で戦争、核戦争…映画「猿の惑星」で描かれた顛末にならないように…

週一菜園

仕事の片手間で、畑の隙間地を活用して、素人菜園を始めた。基本、週末しか世話ができないので、収穫もほとんど期待はしていない。大根は根も葉も食用に回せるので歩留まりがいいと考え、春も秋も種まきしてみたが、結構、虫の食害が後を絶たない。色々薬剤も試したが、使い過ぎも怖いので恐る恐る使っていると、双葉の時期から食害が、ひどい時は葉脈だけ残されたり…薬剤の濃度を上げて噴霧すれば、薬剤による焼け枯れのような状況になり悪化！使用を止めて様子を見ていると、自然治癒力で回復傾向に。健康な青い葉をよく見ると、テントウムシが何匹か乗っていた。「そうか、君のおかげか！」薬剤を駆使するより、天敵の存在が最も効果的であることを知った。「ありがとう！」今まで、これほどその存在を頼もしく感じたことは無かった。夏には初めてスイカ苗を購入して植えてみた。虫害もそれほどなく、初めてピンポン玉程度のミニスイカを発見した時、小さな喜びを感じた。どこまで大きくなるのかなぁと楽しみにしていた矢先、鳥に突かれたような直径 2～3mm 程度の穴が…このままではいけないと思い、手元の紙粘土で応急手当てをしたが、次の週には穴を察知したアリが数匹群がっており、その翌週には見る影もなく潰れたトマトのような姿に。次のスイカはきちんとネットを着せて成長を見届けた。なんとか小玉スイカに育ってくれ、おいしくいただけた。自分で苦労して育てたスイカの味は格別だった。